
4－12．国際介護福祉科

① 人財育成目標

日本社会において、2025年には約245万人の介護人材が必要とされていますが、介護人材は34万人不足すると予想されています。また、2017年、入管法の改正により、新たに「介護」の在留資格が認められ、外国人介護人材への期待も高まっています。そのため本科では、2つの人財育成目標を掲げます。1つ目は介護福祉士の養成です。1年次は学校で学んだ知識を実習や教育活動（アルバイト）を通し、介護の基本的知識を習得します。実習や教育活動（アルバイト）で実践した利用者への支援は根拠あるケアであることを学び、介護の知識を積み重ねます。2年次はこれまで積み重ねてきた知識を整理し、国家試験介護福祉士の合格を目指します。2つ目は利用者に寄り添うことのできる理念と知識と技術を備えた介護人材の育成です。2年間で、介護人材として働くことができるように、1年次の前期前半では、尊厳や、日本の文化、介護の基礎知識、利用者とのコミュニケーションをやさしい日本語を使って学びます。そして1年次の前期後半より徐々に専門知識・専門技術へと段階別に難易度を上げ、習得をしていきます。また、教育連携として、介護法人で課外活動（アルバイト）でOJTを受けることによって介護の実践力を養います。そして、2年間で3回の介護実習を行うことによって、主体性、実践力を学びます。本科を通して、根拠に基づいた介護が実践できる介護福祉士を育成します。

②カリキュラムポリシー（C P）教育課程の編成・実施の方針と分野

【シナリオ1】

介護施設で必要とされる基礎的な仕事の内容や手順を学びながら、施設利用者やその家族、職員と円滑なコミュニケーションができる日本語会話力や職場における初歩的な「報・連・相」を身につける。

【シナリオ2】

介護福祉士の基盤となる「社会のしくみ」「人権と権利擁護」「社会保障」について学習し、人や制度について理解する。

【シナリオ3】

介護福祉士の仕事内容について「介護の基本」「身体介護」「生活援助」「相談援助」と分野別に学習をし、介護福祉士の仕事内容を理解するとともに、介護現場で対応できる介護技術を身につける。

【シナリオ4】

利用者のこころとからだについて「こころのしくみ」「からだのしくみ」「疾病や障害」「喀痰吸引や経管栄養」と分野別に学習をし、介護現場で必要な利用者を理解するための知識を身につける。

【シナリオ5】

実践に必要な知識・技術・姿勢を学んだうえで明確な実習課題を設定し、実時間450時間の介護実習カリキュラムを修了する。

【シナリオ6】

介護福祉士国家試験合格基準に達する。

③ディプロマポリシー（D P）卒業認定・専門士授与の方針

【知 識・技 能】

国家試験介護福祉士の合格基準に達する介護の専門知識が習得できる。介護現場で利用者に安全、安心な介護・医療的ケアが提供できる。

【思 考・判 断・表 現】

地域社会、介護現場の環境、利用者の状況に応じて、利用者の尊厳や権利を擁護することができる。介護福祉士としての倫理や社会的責任等を総合的に判断して問題を提起し、他者への配慮と客観的な論理思考力を用いて解決に導くことができる。

【関 心・意 欲・態 度】

介護の職務への強い関心及び物事へのチャレンジ精神を有し、学業や課外活動において自らがキャリアアップすることができる。

④取得目標資格

資格名・級	主催	受験時期
【1年次】		
日本語能力試験 N2	日本国際教育支援協会	7月 12月
【2年次】		
介護福祉士	厚生労働省	1月
日本語能力試験 N1	日本国際教育支援協会	7月

⑤目標とする職業

介護福祉士

国際介護福祉科「人材目標」育成シナリオ構成図

目指す業界・職種														業界・企業が求める職業人材ニーズ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
＜目指す業界＞ ・地元の社会福祉法人等の介護施設 ＜目指す職種＞ ・介護職														スキル 人材目標				・介護業務の基盤となる能力や考え方に基づき、利用者の心身の状況に応じた介護を自ら一定程度実践できるレベル。 ・日常会話ができ、生活に支障のない日本語能力を有している。 ・介護現場で介護業務に従事する上で支障のない程度の水準の日本語能力を有している。										社会人 基礎力				・利用者や家族、介護施設内において状況に応じて適切なコミュニケーションをとることができる。 ・専門的な知識や技術を磨き、常に利用者や介護の業務に対して誠実である。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
分野／シナリオ		シナリオ別到達目標	1年												2年												1年		2年		合計	習得を目指す 資格・技術・ツール・スキル・成果物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	前期	後期	前期	後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
介護福祉士 国家試験対 策	シナリオ6	介護福祉士国家試験合格基準に達することができる。 * 合格には2つの条件を満たすことが必須 1. 総得点の 60%程度 の基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点 2. 「11の科目群」 すべて に得点すること																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

教育課程及び授業日時数

国際介護福祉科

課 程			専 門 課 程		単 位 表 示		
学 科			国際介護福祉科				
科 目			第1学年	第2学年	第1学年	第2学年	
一 般 科 目	A 選 択	1	日 本 語 応 用 I	30		1	
		2	日 本 語 応 用 II		30		1
	B 選 択	3	情 報 科 学 演 習	30		1	
		4	介 護 ミ ラ イ プ ロ グ ラ ム		30		1
専 門 科 目	必 須 科 目	5	国 家 試 験 対 策		90		6
		6	人 間 の 尊 厳 と 自 立	30		2	
		7	人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	30		2	
		8	チ ー ム マ ネ ジ メ ン ト		30		2
		9	社 会 の 理 解 I	30		2	
		10	社 会 の 理 解 II		30		2
		11	国 際 生 活 文 化	60		2	
		12	情 報 社 会	30		1	
		13	介 護 の 基 本 I	60		4	
		14	介 護 の 基 本 II	60		4	
		15	介 護 の 基 本 III		30		2
		16	介 護 の 基 本 IV		30		2
		17	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 I	30		1	
		18	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術 II		30		1
		19	生 活 支 援 基 礎	50		2	
		20	生 活 支 援 応 用		60		2
		21	生 活 支 援 技 術 I	50		2	
		22	生 活 支 援 技 術 II	80		2	
		23	生 活 支 援 技 術 III		60		2
		24	介 護 過 程 I	90		3	
		25	介 護 過 程 II		30		1
		26	介 護 過 程 III		30		1
		27	介 護 総 合 演 習 I	30		1	
		28	介 護 総 合 演 習 II	40		1	
		29	介 護 総 合 演 習 III		30		1
		30	介 護 総 合 演 習 IV		20		1
		31	介 護 実 習 I	140		4	
		32	介 護 実 習 II	214		7	
		33	介 護 実 習 III		256		8
		34	こ ころ と か ら だ の し く み I	90		6	
		35	こ ころ と か ら だ の し く み II		30		2
		36	発 達 と 老 化 の 理 解 I	30		2	
		37	発 達 と 老 化 の 理 解 II		30		2
		38	認 知 症 の 理 解 I	30		2	
		39	認 知 症 の 理 解 II		30		2
		40	障 害 の 理 解		60		4
		41	医 療 的 ケ ア 基 礎		68	4	
		42	医 療 的 ケ ア 演 習		30		1
年 間 履 修 時 間 数			1204	1004	55	43	
年 間 授 業 日 数			180	180			

一般科目のうち、選択科目はA選択、またはB選択のいずれかを履修する。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 国際介護福祉科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		日本語応用Ⅰ	留学生に対し、日本語能力を証明する資格試験の中間級に合格するよう、対策を行う。	1・通	30	1		○		○				
	○		日本語応用Ⅱ	留学生に対し、日本語能力を証明する資格試験の上位級に合格するよう、対策を行う。	2・通	30	1		○		○				
	○		情報科学演習	基本的なパソコンスキルをさらに発展させ、より高度な技術と応用力を身につけることを目指す。Microsoft Officeの応用操作に加え、データ分析やプレゼンテーション技術の向上を目指す。	1・通	30	1		○		○				
	○		介護ミライプログラム	介護業界におけるICTの役割や介護ロボットの活用方法を学ぶ。また、将来の労働人口減少に伴う介護人材の確保策や外国人介護人材の政策についても理解を深める。さらに、BCP義務化に伴う防災福祉の必要性についても学ぶ。	2・通	30	1		○		○				
○			国家試験対策	福祉業界で実務経験のある教員が、人間と社会の領域、介護の領域、こころとからだのしくみの領域、そして総合問題に焦点を当て、学生が国家試験に必要な知識について指導する。	2・通	90	6		○		○				
○			人間の尊厳と自立	福祉業界で実務経験のある教員が、人権や福祉の理念と自立の在り方について指導する。特に、福祉の現場で求められる尊厳の保持と自立支援の重要性を理解し、実践に役立てるための知識を身につけることを目指す。	1・通	30	2	○			○				
○			人間関係とコミュニケーション	福祉業界で実務経験のある教員が、対人関係におけるコミュニケーションの重要性と効果的なコミュニケーション方法について指導する。また、対人援助関係や組織内でのコミュニケーションについても学び、実践的なスキルを獲得を目指す。	1・通	30	2	○			○				
○			チームマネジメント	福祉業界で実務経験のある教員が、介護実践におけるチームマネジメントについて、ケアの質を向上させる方法や、人材育成・自己研鑽のための戦略、組織の目標達成に向けたアプローチを理解し、実践できる能力と態度について指導する。	2・通	30	2	○			○				
○			社会の理解Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、そして社会保障制度、高齢者保健福祉と介護保険制度の知識について指導する。	1・通	30	2	○			○				

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会の理解Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が、社会と生活のしくみ、障害者保健福祉と障害者総合支援制度、そして介護実践に関連する諸制度について指導する。	2・通	30	2	○			○				
○			国際生活文化	福祉業界で実務経験のある教員が、日本の四季折々の文化、食文化、年中行事、葬式、日本の社会通念、あやとりや折り紙などの伝統的な遊びについて指導する。また、日本の生活文化について、国際的な視点からその意義を理解することを目指す。	1・通	60	2		○		○				
○			情報社会	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。専門学校での学びの基礎を学ぶ「修学基礎」、WordやExcelなど基本的なITスキルを学ぶ「ITリテラシー」を通し社会人基礎力の向上を目指す。	1・通	30	1		○		○				
○			介護の基本Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護福祉を必要とする人々の背景やニーズ、介護福祉の基本概念と歴史について指導をする。また、介護福祉士の具体的な役割と機能、責任や倫理的な問題に対する対応方法について実践的なスキルを身につけることを目指す。	1・通	60	4	○			○				
○			介護の基本Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ、支援体制やサービスの提供方法について指導する。また、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学び、事故防止や緊急時の対応方法の習得を目指す。	1・通	60	4	○			○				
○			介護の基本Ⅲ	福祉業界で実務経験のある教員が、自立に向けた介護福祉のあり方について、自立支援、I C F の考え方、自立支援とリハビリテーションについて指導する。	2・通	30	2	○			○				
○			介護の基本Ⅳ	福祉業界で実務経験のある教員が、協働する多職種の機能と役割と介護従事者の安全について指導する。	2・通	30	2	○			○				
○			コミュニケーション技術Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護現場における利用者との信頼関係の構築や、効果的なコミュニケーション技術について指導する。また、非言語コミュニケーション、傾聴の技法を実践し、利用者の特性に応じた対応方法の習得を目指す。	1・通	30	1		○	△	○				
○			コミュニケーション技術Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が、家族やチームメンバーとの効果的なコミュニケーション方法について指導する。また、家族との連携、家族会議の進め方や多職種連携の方法を実践する。チーム内での円滑なコミュニケーションを図り、介護現場でのチームケアを向上を目指す。	2・通	30	1		○	△	○				
○			生活支援基礎	福祉業界で実務経験のある教員が、ボディメカニクス、ベッドメイキング、浴衣の着方、裁縫などの基礎となる生活支援について指導する。また、災害時における生活支援、緊急時の対応方法の習得を目指す。	1・通	50	2		○	△	○				

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生活支援応用	福祉業界で実務経験のある教員が、居住環境の整備、福祉用具の意義、自立に向けた家事の介護について指導する。また、介護現場での応用力を高めることを目指す。	2・通	60	2		○	△	○				
○			生活支援技術Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が、自立に向けた移動、身じたく、食事の介護技術を中心に指導する。基本的な生活支援技術を習得し、介護現場での実践力を高めることを目指す。	1・通	50	2		○	△	○				
○			生活支援技術Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、排泄の介護、休息・睡眠の介護について指導する。また、人生の最終段階における介護と応急手当の知識と技術を習得し、緊急時の対応方法を身につけることを目指す。	1・通	80	2		○	△	○				
○			生活支援技術Ⅲ	福祉業界で実務経験のある教員が、利用者の状態・状況に応じた支援技術と障害に応じた生活支援技術について指導する。学生が個々の利用者に適した支援技術を習得し、介護現場での応用力を高めることを目指す。	2・通	60	2		○	△	○				
○			介護過程Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護過程の基礎、介護過程を展開する上での注意点について指導する。事例を多く用いた学習を通じて、介護過程の実際の展開方法の習得を目指す。	1・通	90	3		○		○				
○			介護過程Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護実習を通じて介護過程を実施するためのスキルについて指導する。実際の現場での経験を基に、介護過程の各ステップを実践し、適切な介護計画を立案することを旨とする。	2・通	30	1		○		○				
○			介護過程Ⅲ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護過程を実施し、その評価を行う。実施した介護過程の内容を振り返り、評価結果を基に改善点を見つけ、発表を行う。	2・通	30	1		○		○				
○			介護総合演習Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護実習を行うために、介護実践に必要な知識と技術の統合や、専門職としての心構えを指導する。実習後は知識と技術と実践を統合し、次の実習に向け自身の課題と専門職としての姿勢を明確にすることを旨とする。	1・通	30	1		○		○				
○			介護総合演習Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護実習を行うために、介護実践に必要な知識と技術の統合や、専門職としての心構えを指導する。実習後は知識と技術と実践を統合し、科学的で根拠ある介護実践について理解を深めることを旨とする。	1・通	40	1		○		○				
○			介護総合演習Ⅲ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護実習を行うために、介護実践に必要な知識と技術の統合や、専門職としての心構えを指導する。実習後は科学的で根拠ある介護実践を通じ、自身の介護観が確立を旨とする。	2・通	30	1		○		○				

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護総合演習Ⅳ	福祉業界で実務経験のある教員が、介護実習Ⅲの事例を通し、介護実践の振り返り、科学的な根拠ある介護とは何か再考できるよう指導する。また自身の介護観を確立し、専門職としての基礎を醸成することを目指す。	2・通	20	1		○		○				
○			介護実習Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。福祉サービスが必要とする人々の様々な生活の場、また多様な暮らしを実践を通し理解する。利用者や家族とのコミュニケーションを中心に、基本的な生活支援技術の実践、多職種協同の実践や、地域との関わりを学ぶ。	1・通	140	4			○		○			○
○			介護実習Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。高齢者または障害者施設にて介護過程の展開を中心に実践する実習とする。利用者の主体性を理解し、基本的な生活支援技術の実践、介護福祉士の役割などを理解する。	1・通	214	7			○		○			○
○			介護実習Ⅲ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。高齢者または障害者施設にて介護過程の展開を中心に実践する実習とする。介護過程の一連のプロセスを実践し、利用者のニーズについて理解を深める。また、多職種協同の意義、チームケアを体験的に学ぶ。	2・通	256	8			○		○			○
○			こころとからだのしくみⅠ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。健康とはなにか、こころのしくみ、からだのしくみ、移動・身じたく・食事に関連したこころとからだのしくみの知識の習得を目指す。	1・通	90	6	○				○			
○			こころとからだのしくみⅡ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。入浴・清潔保持・排泄・休息・睡眠・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみの知識の習得を目指す。	2・通	30	2	○				○			
○			発達と老化の理解Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。人間の成長と発達の基礎的知識、人間の発達段階と発達課題、老年期の特徴と発達課題について知識の習得を目指す。	1・通	30	2	○				○			
○			発達と老化の理解Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。老化にもとなうこころとからだの変化と生活、高齢者と健康について知識の習得を目指す。	2・通	30	2	○				○			
○			認知症の理解Ⅰ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。認知症の基礎的理解、認知症の症状・診断・治療・予防、障害をかかえて生きることへの支援について知識の習得を目指す。	1・通	30	2	○				○			
○			認知症の理解Ⅱ	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。認知症ケアの実践、介護者支援、認知症の人の地域生活支援について知識の習得を目指す。	2・通	30	2	○				○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等 の 運 携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			障害の理解	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。障害の概念と障害福祉の基本理念、障害者別の基礎的理解と特性に応じた支援、連携と協働、家族への支援について知識の習得を目指す。	2・通	60	4	○			○				
○			医療的ケア基礎	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引、経管栄養について知識の習得を目指す。	2・通	68	4	○			○				
○			医療的ケア演習	福祉業界で実務経験のある教員が指導する。喀痰吸引、経管栄養、救急蘇生法について演習を実施し、利用者に適した支援方法を身に付けることを目指す。	2・通	30	1		○	△	○				
合計			42科目 2,208単位時間（98単位）												